# 教育実習における実習効果について
## ー実習園からのアンケートを通してー

長　根　利紀代

Ⅰ　はじめに
Ⅱ　研究方法
Ⅲ　結果と考察
Ⅳ　まとめ

## Ⅰ　はじめに

平成10年幼稚園教育要領が見直され、平成12年度4月より施行される。近年の社会の変化に即し、多様化する保育ニーズに合わせて保育者の働きがますます社会の期待を担うこととなり、保育の諸問題に対応できる力量が求められている。今後はさらに家庭や社会との連携を図る中で、一人一人の幼児のその子なりの心身の発達と幼稚園や地域の実態を把握することが求められる。その上で、自らの創意工夫を生かした教育環境を準備して適切な援助をするなど以前にまして様々な役割を果たさねばならない。そのためには、学生は実習を通してこれからの保育に必要な保育者の力量を実践を通して総合的に学習し、その評価・反省を通して自らの不十分な点の強化や今後への研究課題に向かって学習を進めていかねばならない。それには、自らの実力をありのままに評価できる視点が明確にできるよう援助することが必要である。これまでも実習事後指導や授業などを通して、学生の貴重な実習の経験を最大限に生かして、さらに実習効果をあげられるよう先行研究なども考慮し努力してきたが、実習は実習園の協力や学内指導の充実、そして実習生としてしっかりとした目的意識をもった学生が一体となってはじめてその効果も大きく引き出される。また、この中でも特に学生が実習園から受ける影響はその後の学習態度や就職方向を大きく左右する重要な経験となる。そこで、この三者の視点から現状の学生の力量や実習効果を把握し、今の学生に必要な指導の充実を図るため、本研究では事後指導の一貫として学生に実施していたアンケートについてほぼ同様の内容で実習園の協力が得られたことから、実習園評価表も加えて学生の実習内容とその効果を考察する。

## Ⅱ　研究方法

97年度生の1年次、2年次におけるそれぞれの実習園評価表及びアンケートA（学生の自己評価アンケート「C」と同じ内容）、実習終了時の学生の自己評価に関するアンケートB（実習園評価表と同じ内容）・アンケートC（学生自己評価）などの集計結果により考察する。

調査対象　1997年度（実習履修生）
実習期間　1年次－1997年10月～1998年2月
　　2年次－1998年4月～1999年6月
実習形態　1年次－毎週1回の通年実習
　　2年次－毎週1回の通年実習及び1週間の集中実習
実習内容　見学・観察、参加、指導・援助
　　（1年次は主に見学・観察・参加実習）
実習園数　1年次、2年次とも48園；1年次～2年次は原則として同じ園で実習
調査内容　①実習評価表－実習園による4段階評価（A：よくできた　B：まあまあできた　C：できなかった　D：非常にできなかった）
　　●評価項目
　　1年次－見学・観察、指導・援助、記録、総合

2年次－指導・援助、意欲・態度、記録、総合

●評価表回収枚数

1年次－157枚

2年次－153枚

② アンケートA（実習園によるもの。内容は学生自己評価アンケート「C」と同様の質問10項目。評価はA～Dの4段階評価による）

内容：1 幼稚園の概要について、
2 理論について、
3 子ども理解について、
4 援助について、
5 技術について、
6 提出物について、
7 礼儀について、
8 服装について、
9 健康について、
10 実習効果について

③ アンケートB（学生による自己評価で実習園「評価表」と同じ内容のもので「評価表」と同様のA～Dによる4段階評価）

④ アンケートC（学生による自己評価で質問10項目のもの。内容はアンケート「A」と同様で評価もA～Dによる4段階評価）

⑤ アンケートD・E（学生による自己評価で実習に対する「不安」「期待」などについての評価及びその理由について質問したものでDは実習開始時、Eは実習中間時のもの）

⑥ 有効アンケート枚数

◎アンケートA

1年次 133枚　2年次 131枚

◎アンケートB

1年次 153枚　2年次 152枚

◎アンケートC

1年次 149枚　2年次 152枚

◎アンケートD

1年次 152枚

◎アンケートE

1年次 154枚

## Ⅲ　結果と考察

### 1．実習園評価表及び学生の自己評価（アンケートB）について（表1・表2）

（1）実習園よりの評価表及び学生によるアンケートBの総合評価について

1年次、2年次それぞれを評価A・B・C・Dの4段階毎に集計し、両者を相対的に比較し全体的な傾向を考察する。

〔表1〕評価表・自己評価の4段階別評価　(%)

| | | 実習園評価 | 学生自己評価 |
|---|---|---|---|
| 1年次 | A | 23.1 | 2.9 |
| | B | 65.5 | 48.1 |
| | C | 11.1 | 43.5 |
| | D | 0.3 | 5.0 |
| | 無回答 | 0.0 | 0.5 |
| 2年次 | A | 36.9 | 16.3 |
| | B | 54.1 | 53.8 |
| | C | 8.6 | 27.7 |
| | D | 0.2 | 1.2 |
| | 無回答 | 0.2 | 1.0 |

評価表では「A」評価が23.1%と学生の自己評価2.9%より20.2%高く、「B」評価も評価表65.5%に対し48.1%で17.4%高いことから1年次の学生の自己評価は実力に見合った評価となっていない。しかし、2年次になると評価表「A」評価は36.9%に対し自己評価は16.4%でやはり20.5%と差は大きいが「B」評価については評価表54.1%に対し53.5%で0.6%と差は縮まっている。評価表1年次、2年次で比較すると、2年次では「A」評価は13.8%高くなっているが、「B」評価で11.4%低くなっている。一方自己評価では2年次で「A」評価13.4%、「B」評価5.7%の上昇となっていることから、学生は2年次では多少自信をつけてきたとも言えるが、実習園の評価の実態との差を縮められる視点の見直しが必要である。この点については先行研究[注1)]でも考察されていたことから事前指導などに配慮したり、こうした結果を図にして提示し、「理由」などの説明、疑問への対応や資料配布など工夫してきた。しかし、こうした結果もやはり先行研究での[注2)]「実習に取り組む学生の心情」にあるように学生の抱えている「不安感」についても十分考慮する必要がある。そこで、次

に評価表、自己評価の内容について項目別に考察する。

（2）評価表及び学生の総合評価における自己評価（アンケートB）の項目別評価について

a）項目別評価について

評価表及び自己評価を評価項目毎に集計した結果から項目別に評価をみると、1年次では「見学・観察」の「A」評価が評価表30.6%に対し自己評価5.2%で25.4%評価表増、しかし、「B」評価では評価表65.0%に対し自己評価78.4%で評価表13.4%減。「指導・援助」の「A」評価は評価表10.2%に対し自己評価0.0%で10. 2%評価表増、「B」評価では評価表68.2%に対し自己評価22.2%で評価表46.0%と大幅増で特に学生は評価を低く受けとめている。「記録」は「A」評価の評価表31.8%に対し自己評価6.5%で25.3%評価表増、「B」評価では評価表56.1%に対し自己評価57.6%と1.5%評価表減でわずかの差となっている。「総合」の「A」評価は評価表19.7%に対し自己評価0.0%で19.7%評価表増、「B」評価では評価表72.6%に対し自己評価33.3%と39.3%評価表増と大きく差がついていて学生の自信の無さが目立つ。同様に2年次をみると「意欲・態度」の「A」評価は評価表63.3%に対し自己評価46.7%で16.1%評価表増となる。「B」評価でも評価表30.1%に対し自己評価48.0%で評価表18.6%減と学生の自信が感じられる。しかし、「指導・援助」での「A」評価の評価表19.6%に対し自己評価0.7%で18.9%評価表増、「B」評価でも評価表68.6%に対し自己評価48.0%と20.6%評価表増となりまだ差は大きい。「記録」では「A」評価は評価表30.7%に対し自己評価18.4%で12.3%評価表増、「B」評価では評価表57.5%に対し自己評価52.6%と4.9%評価表増となり「A」評価、「B」評価を総合して1年次に比較すると、その差は縮み慣れの効果もあるが実力が伴ってきているものとも考えられる。しかし、「総合」については「A」評価の評価表34.0%に対し自己評価0.0%で34.0%評価表大幅増、「B」評価では評価表60.1%に対し自己評価64.4%と4.3%

〔表2〕 1年次評価表及び学生による自己評価（アンケートB）の項目別評価　(%)

| 1　年　次 | | | |
|---|---|---|---|
| 項　目 | 評　価 | 評価表 | 自己評価 |
| 見学観察 | A | 30.6 | 5.2 |
| | B | 65.0 | 78.4 |
| | C | 4.4 | 15.1 |
| | D | 0.0 | 1.3 |
| | 無回答 | 0.0 | 0.0 |
| 指導援助 | A | 10.2 | 0.0 |
| | B | 68.2 | 22.2 |
| | C | 21.0 | 69.3 |
| | D | 0.0 | 8.5 |
| | 無回答 | 0.6 | 0.0 |
| 記録 | A | 31.8 | 6.5 |
| | B | 56.1 | 57.6 |
| | C | 12.1 | 29.4 |
| | D | 0.0 | 6.2 |
| | 無回答 | 0.0 | 0.0 |
| 総合 | A | 19.7 | 0.0 |
| | B | 72.6 | 33.3 |
| | C | 7.1 | 61.4 |
| | D | 0.0 | 4.6 |
| | 無回答 | 0.6 | 0.7 |

〔表3〕 2年次評価表及び学生による自己評価（アンケートB）の項目別評価　(%)

| 2　年　次 | | | |
|---|---|---|---|
| 項　目 | 評　価 | 評価表 | 自己評価 |
| 意欲態度 | A | 63.3 | 46.7 |
| | B | 30.1 | 49.3 |
| | C | 5.9 | 3.9 |
| | D | 0.0 | 0.0 |
| | 無回答 | 0.7 | 0.0 |
| 指導援助 | A | 19.6 | 0.7 |
| | B | 68.6 | 48.0 |
| | C | 11.8 | 50.5 |
| | D | 0.0 | 1.3 |
| | 無回答 | 0.0 | 0.0 |
| 記録 | A | 30.7 | 18.4 |
| | B | 57.5 | 52.6 |
| | C | 11.1 | 25.7 |
| | D | 0.0 | 3.3 |
| | 無回答 | 0.0 | 0.0 |
| 総合 | A | 34.0 | 0.0 |
| | B | 60.1 | 64.4 |
| | C | 5.9 | 30.9 |
| | D | 0.0 | 0.7 |
| | 無回答 | 0.0 | 3.9 |

評価表減と取り返えしたものの依然その差は大きい。

ここでは「A」評価で評価表と自己評価に大差がついたまま、「B」評価でも差を縮められていないものもあれば、「A」評価では評価表と大きな差がついても「B」評価で取り戻したりしているものもある。そこで、評価の特徴や項目毎の学生の意識を把握するため4段階評価を「A・B評価」は「できた」、「C・D評価」は「できなかった」として各項目に対する傾向を考察する。

b）項目別「できた」「できなかった」による評価について

評価表及び自己評価を「A（できた）・B（まあまあできた）」評価を合わせて「できた」とし、「C（できなかった）・D（非常にできなかった）」を合わせて「できなかった」として評価表及び自己評価をみると、1年次評価表では「見学・観察」が第1位となり95.6%、続いて92.3%で「総合」が第2位となり、いずれも高い数値で「できた」と認められている。しかし、「できなかった」では第1位に「指導・援助」が21.0%となっているが1年次実習内容が「見学・観察・参加」が主であることや毎週1回の通年実習という実習形態を考えるとき納得できる評価であり、「できた」での「指導・援助」は第4位として最下位ではあるが78.4%の数値には実習園の配慮が感じられる。一方自己評価をみると「できた」の第1位は評価表と同じく「見学・観察」となり83.6%である。続いて第2位に「記録」64.1%で見学や観察が記録を通して目に見える形となり評価の手がかりとなったと考える。ちなみに「できなかった」では第1位に「指導・援助」が77.8%と大きな数値で現れており評価表との差は56.8%にもなって3分の2以上の学生となる。2年次になると、「評価表」の「できた」は第1位が「総合」で94.1%、第2位「意欲・態度」で93.4%であり、「できなかった」では第1位「指導・援助」、「記録」共に11.1%と同数になっている。自己評価では「できた」は第1位が「意欲・態度」で96.0%の多数の学生が自信をうかがわせている。第2位には「記録」が71.0%を示しているが、「できなかった」では「指導・援助」が第1位で48.7%と2年次になっても半数近くの学生が「できなかった」として第1位にあがっている。しかし、1年次77.8%に比べれば26.5%取り返しているとは言えるが、やはり自信のない評価となり、「総合」も第2位で31.6%となっている。こうしてみると、学生は2年次において1年次と同じ実習園で様子になれていると考えられるが、「指導・援助」の評価は実習園のものと39.5%も低く示し、「総合」も実習園との評価差29.7%となっているのはどのような視点で評価したのかその内容に注目される。

そこで、評価の内容をさらに詳しく考察するため、保育に関する10項目からなる実習園及び学生のアンケートを通して考察する。

〔表4〕1年次評価表及びアンケート「B」による「A・B」評価、「C・D」評価による対比

◎1 年 次　　(%)

| | 評価表 | | 自己評価 | |
|---|---|---|---|---|
| | できた | できなかった | できた | できなかった |
| 1位 | 見学・観察 95.6 | 指導・援助 21.0 | 見学・観察 83.6 | 指導・援助 77.8 |
| 2位 | 総合 92.3 | 記録 12.0 | 記録 64.1 | 総合 66.0 |
| 3位 | 記録 87.9 | 総合 7.1 | 総合 33.3 | 記録 35.6 |
| 4位 | 指導・援助 78.4 | 見学・観察 4.4 | 指導・援助 22.2 | 見学・観察 16.4 |

〔表5〕2年次評価表及びアンケート「B」による「A・B」評価、「C・D」評価による対比

◎2 年 次　　(%)

| | 評価表 | | 自己評価 | |
|---|---|---|---|---|
| | できた | できなかった | できた | できなかった |
| 1位 | 総合 94.1 | 指導・援助 11.8 | 意欲・態度 96.1 | 指導・援助 51.3 |
| 2位 | 意欲・態度 93.5 | 記録 11.8 | 記録 71.1 | 総合 31.6 |
| 3位 | 指導・援助 88.2 | 意欲・態度 5.9 | 総合 64.5 | 記録 28.9 |
| 4位 | 記録 88.2 | 総合 5.9 | 指導・援助 48.7 | 意欲・態度 3.9 |

## 2．アンケート「A」及びアンケート「C」について

ここ数年、実習事後指導の一貫として、学生がアンケート「B」と共に記入していたアンケート「C」と、その「C」と同様の内容で実習園にもアンケートを依頼し協力を得ることができたことから、その集計結果を比較し考察する。その際、実習園の評価の「理由」については多忙な職務を配慮し依頼を遠慮したことから学生の評価の「理由」のみをまとめ引用する。アンケートの内容は先行研究に順じた10項目とし、1年次、2年次について実習園の評価と学生の自己評価をそれぞれ「A・B評価＝できた」「C・D評価＝できなかった」として対比させ考察する。

### （1）質問の内容について

**質問1「幼稚園の概要をつかむことができましたか」**

1年次では、実習園からのアンケート「A」（以後「A」とする）は「できた」91.7%、「できなかった」5.3%に対し、学生の自己評価アンケート「C」（以後「C」とする）は「できた」85.2%、「できなかった」14.1%で、「A」と「C」とでは「できた」はその差6.5%「A」が多く、「できなかった」では8.8%「C」が多くなっていることから、学生の自信のもてない様子がみられる。2年次になると「A」では「できた」95.4%、「できなかった」2.3%に対し、「C」は「できた」95.4%、「できなかった」3.3%と「A」と「C」では「できた」が同数となっている。従って、「質問1」では時間の経過と共に「できた」ことが自他共に認められたことが分かった。（図1）

**質問2「理論を現場に生かした実習ができましたか」**

1年次では、「A」の「できた」71.4%、「できなかった」23.3%に対し、「C」は「できた」41.6%、「できなかった」58.4%で、「できた」ではその差29.8%「A」が多く、「できなかった」では25.1%「C」が多くなっている。2年次になると「A」の「できた」は80.1%、「できなかった」16.8%に対し、「C」は「できた」66.4%、「できなかった」32.9%で、「A」の「できた」では23.7%「C」より多い。このように、2年次になって多少差は縮まりをみせたが、「質問2」では現場と学生の評価の差は大きい。（図2）

**質問3「子どもの心や行動を理解することができましたか」**

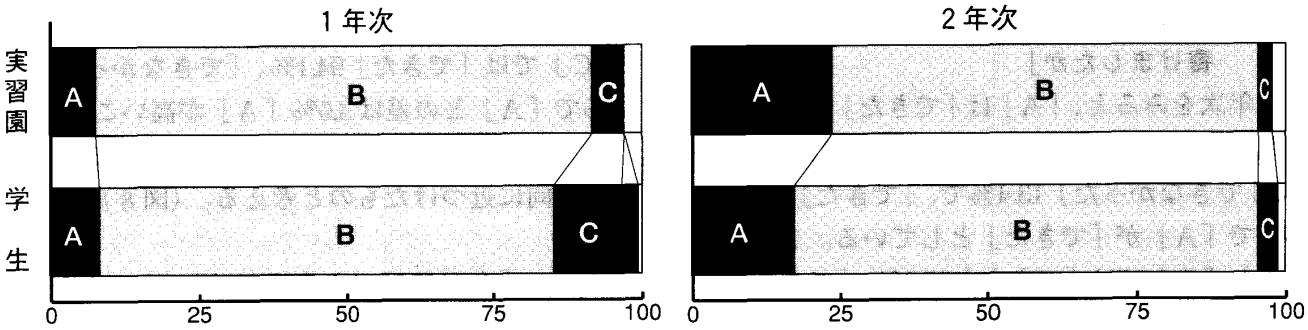
1年次の、「A」は「できた」83.4%、「できなかった」13.5%に対し、「C」は「できた」37.5%、「できなかった」61.7%で、「できた」ではその差45.9%「A」が多い。2年次になると、「A」では「できた」93.0%、「できなかった」6.1%に対し、「C」は「できた」75.0%、「できなかった」23.6%で「できた」では18.0%「A」の評価が高く「C」の自信のもてない傾向が目立つ。（図3）

**質問4「子どもの心や行動を理解した援助ができましたか」**

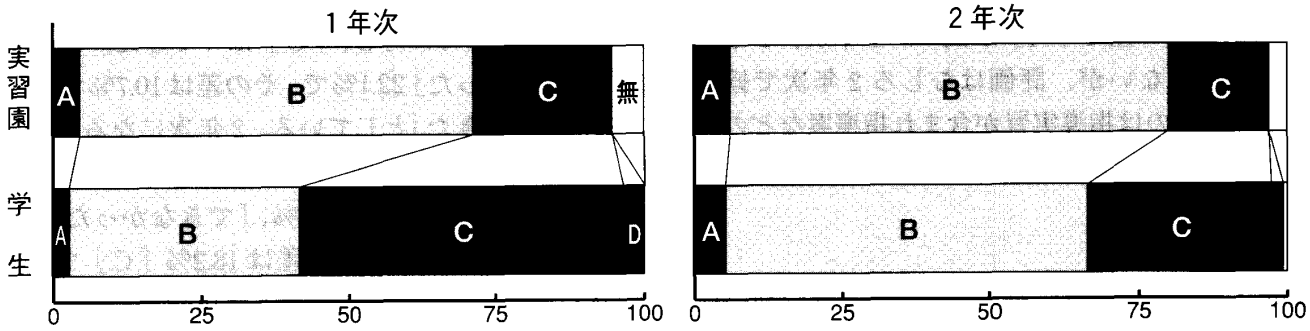
1年次では、「A」は「できた」62.4%、「できなかった」36.1%に対し、「C」では「できた」37.5%、「できなかった」61.7%で、「できた」ではその差24.8%「A」の実習園の評価が多い。2年次では「A」の「できた」84.6%、「できなかった」15.3%に対し、「C」は「できた」55.2%、「できなかった」44.1%で「A」と「C」では「できた」の差は29.4%で両者とも「できた」の数値はあがってもその差は2年次の方が4.6%差が広がっていることから子ども理解に苦手意識が強い。（図4）

**質問5「技術面は努力し進歩しましたか」**

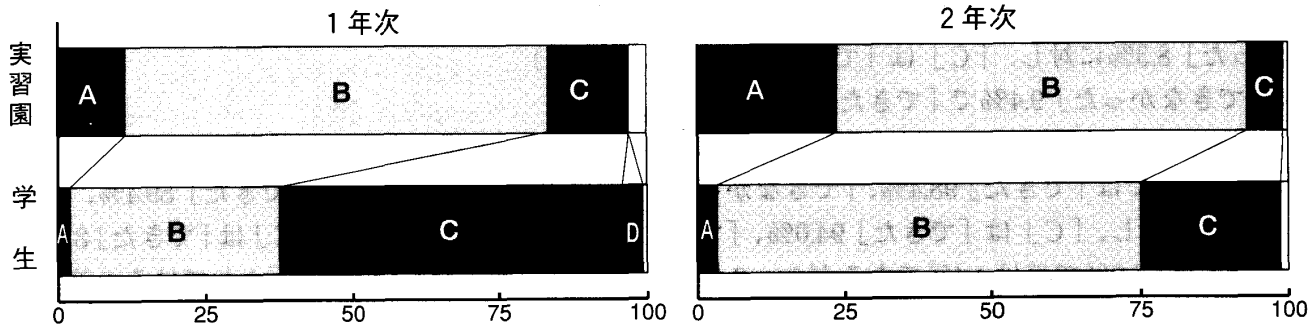
1年次では、「A」の「できた」78.9%、「できなかった」15.0%に対し、「C」は「できた」63.1%、「できなかった」34.9%で、「できた」ではその差15.8%で「A」が高くなっているが、2年次は「A」の「できた」93.1%、「できなかった」4.6%に対し、「C」は「できた」88.1%、「できなかった」11.8%となり、「A」と「C」では「できた」は5.0%「A」で高くなっている。ここでは1年次より2年次に差が減少し、2年次では実力を上げ、学生も自覚をもつことができ実習園にも認められている。（図5）



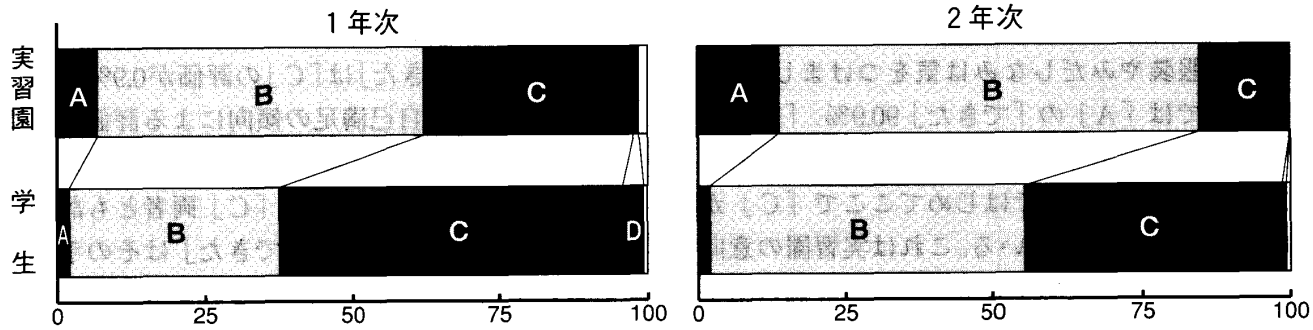

〔図1〕 質問1、「幼稚園の概要をつかむことができましたか」



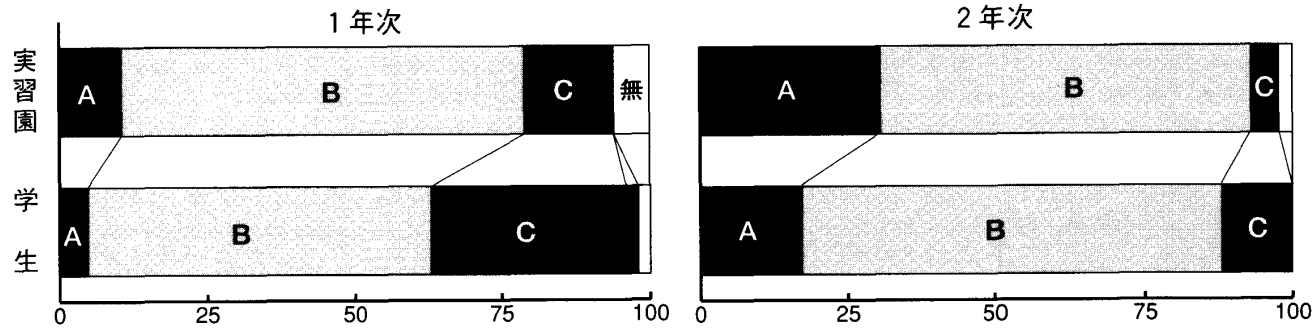

〔図2〕 質問2、「理論を現場に生かした実習ができましたか」




〔図3〕 質問3、「子どもの心や行動を理解することができましたか」




〔図4〕 質問4、「子どもの心や行動を理解した援助ができましたか」




〔図5〕 質問5、「技術面は努力し進歩しましたか」

**質問6「記録や提出物は期日までに提出し丁寧に書けましたか」**

1年次をみると、「A」は「できた」90.2%、「できなかった」9.8%に対し、「C」は「できた」86.6%、「できなかった」13.4%で、「できた」では3.6%差で「A」が「できた」としている。2年次になると「A」では「できた」89.3%、「できなかった」10.7%に対し、「C」は「できた」80.9%、「できなかった」19.1%で「A」と「C」では「できた」は8.4%の差で「A」が高い。1年次、2年次とも大差はないが、評価はむしろ2年次で低くなっているのは指導実習が含まれ指導案などの作成が影響していることから現れたと考える。(図6)

**質問7「園の教職員に対する礼儀や言葉づかいは気をつけましたか」**

1年次では、「A」は「できた」90.9%、「できなかった」8.3%に対し、「C」は「できた」90.6%、「できなかった」9.4%で「できた」の差はわずか0.3%で「A」が多くなっている。2年次になると「A」では「できた」98.4%、「できなかった」1.5%に対し、「C」は「できた」94.0%、「できなかった」5.9%で差は4.4%であるが1・2年次共「A」・「C」共に好成績となり学生の努力の成果と達成感が現れたと考える。(図7)

**質問8「服装やみだしなみは気をつけましたか」**

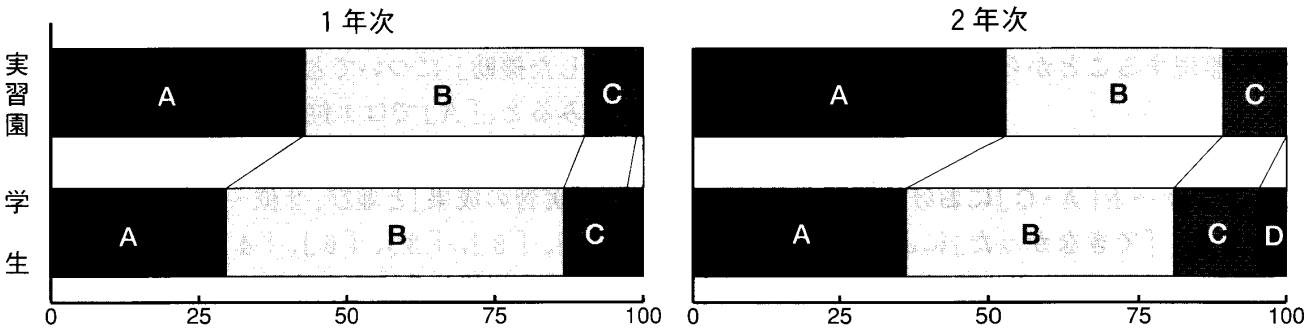
1年次では「A」の「できた」90.9%、「できなかった」7.5%に対し、「C」は「できた」97.9%、「できなかった」2.0%ではじめてここで「C」が7.0%評価が高く現れている。これは実習園の意向より学生自身の満足感や達成感による評価の結果と考える。しかし、2年次になると「A」では「できた」97.7%、「できなかった」2.3%と上昇し、「C」では「できた」94.1%、「できなかった」3.9%で「A」との差は3.6%「A」が高いことから、努力の方向としては学生なりに修正ができ実習園の意向に近づけたものと考える。(図8)

**質問9「自己管理(心身の健康)はできましたか」**

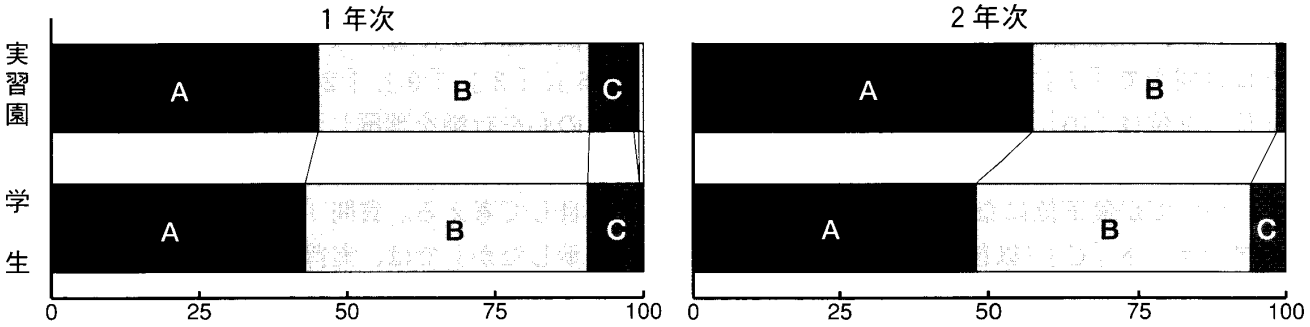
1年次の、「A」は「できた」87.9%、「できなかった」6.1%に対し、「C」は「できた」77.2%、「できなかった」22.1%で、その差は10.7%で「A」が多く「できた」としている。2年次になると「A」では「できた」92.4%、「できなかった」6.1%に対し、「C」は「できた」74.2%、「できなかった」25.0%と「できた」ではその差は18.2%「C」で落ち込んでいる。ここで見ると「健康管理」については実際の学生の体調より学生自身の努力と頑張りが現場で評価されていることが改めて分かる。(図9)

**質問10「実習の成果はありましたか」**

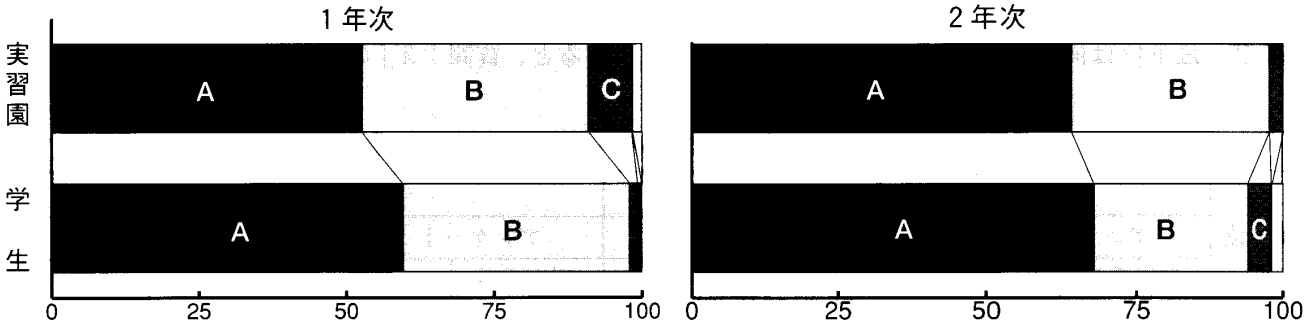
1年次では、「A」は「できた」89.4%、「できなかった」2.3%に対し、「C」は「できた」81.9%、「できなかった」13.4%で「A」ではその差7.5%「できた」としている。2年次になると「A」では「できた」98.4%、「できなかった」1.5%に対し、「C」は「できた」99.3%、「できなかった」0.7%とここでも「できた」は「C」の評価が0.9%上回っており、学生の自己満足の傾向による評価が見受けられる。しかし、「質問10」では、1年次に比較すると2年次では「A」・「C」両者とも評価は高くなっており、学生の「できた」はその手応えと共に実習園の数値に裏付けされ実習成果は十分得られたと考える。(図10)



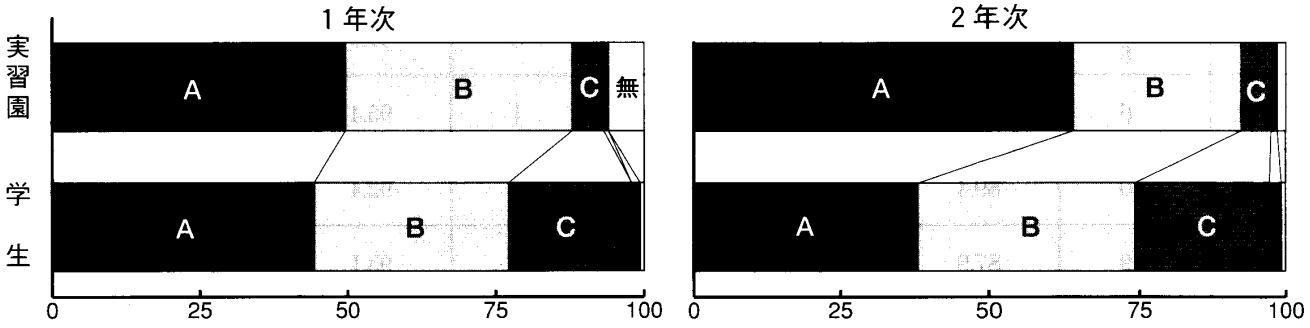

〔図6〕　質問6、「記録や提出物は期日までに提出し丁寧に書けましたか」



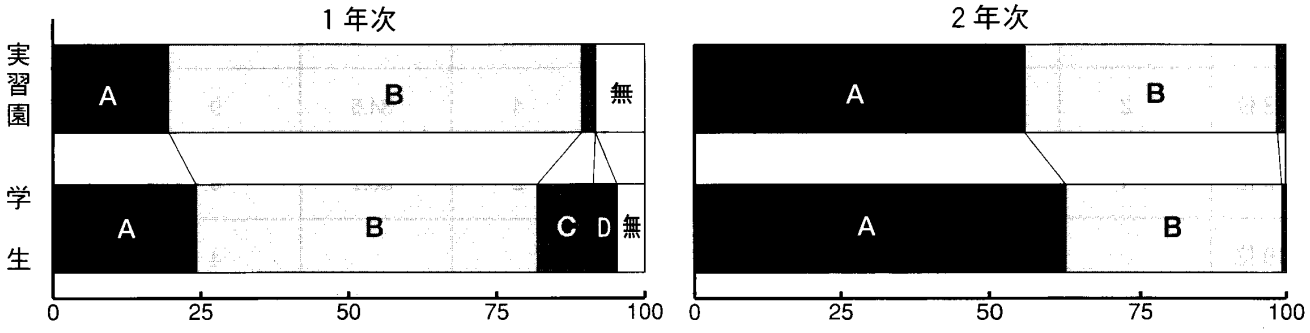

〔図7〕　質問7、「園の教職員に対する礼儀や言葉づかいは気をつけましたか」




〔図8〕　質問8、「服装やみだしなみは気をつけましたか」




〔図9〕　質問9、「自己管理（心身の健康）はできましたか」




〔図10〕　質問10、「実習の成果はありましたか」

次に全体を通して「できた」について数値の高い順に整理することから学生の傾向をみる。（表6）

### （2）アンケート「A・C」における質問項目別「できた」「できなかった」による順位について

4段階評価を「A・B」を「できた」として集計を多い順に整理してみると、1年次では実習園のアンケート「A」（以後「A」とする）は1位が質問「1」で「幼稚園の概要」についてとなり、順に2位は同数で「7」「8」、3位は「6」と続いて4位～9位は「10」、「9」、「3」、「5」、「2」と並び、質問「4」「子どもの心や行動を理解した援助」についてが最下位になっている。同様に、学生のアンケート「C」（以後「C」とする）では1位は質問「8」で「服装やみだしなみ」についてとなり、2位は「7」、そして、3位の「6」に続いて4位～7位は「1」、「10」、「9」、「5」、「2」と並び、最下位は同数で質問「3」の「子どもの行動の理解」と「4」の「子どもの心や行動を理解した援助」についてとなった。そこで、2年次をみると、「A」では1位は同数で質問「7」の「園の教職員に対する礼儀や言葉づかい」と質問「10」の「実習の成果」と並び、2位～8位は「8」、「1」、「9」、「5」、「3」、「6」、「4」、で質問「2」の「理論を現場に生かした実習」が最下位となった。一方「C」では「10」の「実習の成果」が実習園の評価を超えて1位となって現れ、2位に「1」、3位には「8」、続いて4位～9位は「7」、「5」、「6」、「3」、「9」、「2」、となり「4」の「子どもの心や行動を理解した援助」が10位で最下位となった。以上の結果から、「保育」に関するものに注目して考える。質問「5」の「技術面は努力し進歩したか」では、実習園1年次「7位」から2年次は「5位」となったが、学生も同じく1年次「7位」から2年次では「5位」と順位は上昇し、両者は同じ評価となっている。こうした点から考えると、質問「3」の「子どもの心や行動の理解」

〔表6〕アンケート「A・C」の「できた」による集計順位　(%)

| 順位 | 1年次 | | | | 2年次 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | アンケート「A」 | | アンケート「C」 | | アンケート「A」 | | アンケート「C」 | |
| | 質問番号 | 評価 | 質問番号 | 評価 | 質問番号 | 評価 | 質問番号 | 評価 |
| 1位 | 1 | 91.7 | 8 | 97.9 | 7<br>10 | 98.4<br>98.4 | 10 | 99.3 |
| 2位 | 7<br>8 | 90.9<br>90.9 | 7 | 90.6 | 8 | 97.7 | 1 | 95.3 |
| 3位 | 6 | 90.2 | 6 | 86.6 | 1 | 95.4 | 8 | 94.1 |
| 4位 | 10 | 89.4 | 1 | 85.2 | 9 | 92.4 | 7 | 94.0 |
| 5位 | 9 | 87.9 | 10 | 81.9 | 5 | 93.1 | 5 | 88.1 |
| 6位 | 3 | 83.4 | 9 | 77.2 | 3 | 93.0 | 6 | 80.9 |
| 7位 | 5 | 78.9 | 5 | 63.1 | 6 | 89.3 | 3 | 75.0 |
| 8位 | 2 | 71.4 | 2 | 41.6 | 4 | 84.6 | 9 | 74.2 |
| 9位 | 4 | 62.4 | 3<br>4 | 37.5<br>37.5 | 2 | 80.1 | 2 | 66.4 |
| 10位 | | | | | | | 4 | 55.2 |

質問内容：「1」園の概要、「2」理論、「3」子ども理解、「4」援助、「5」技術、「6」提出物、「7」礼儀、「8」服装、「9」健康、「10」実習効果。

に関する評価は、実習園１年次「６位」、２年次も「６位」と変らず。一方、学生は１年次「９位」と低い順位から２年次では「７位」と評価は上昇したものの、質問「２」の「理論を生かした実習」に関するものは、実習園の１年次「８位」から２年次では「９位」へ、そして、学生も１年次「８位」から２年次「９位」と両者そろって順位は下降している。また、質問「４」の「子どもへの心や行動を理解した援助」に関するものについては２年次実習園が「８位」になったものの、実習園１年次、学生１年次、２年次共最下位になっている。これらの点から考えると、これまでの学生の「指導・援助」に関する低い評価は「理論的に子どもを理解し援助する」ことについて、具体的な実践例や方法を示すことにより、学生の自信を支え、「子ども理解と援助」に関する学生の不安や戸惑いを軽減することが大切と考える。（表６）

### ３．アンケート「Ｃ」の評価に対する主な「理由」について

アンケート「Ｃ」における「１」～「10」の各質問毎に理由の類似したものを整理し、いずれも多い順に１位～３位までを表にまとめた。（表７）また、学生の１年時実習開始時及び実習中間時（１年次実習終了時）の実習の「不安」に感じている理由についてのアンケート「Ｄ」「Ｅ」も引用して考察する。（表８）

#### 「質問１」の「理由」について

１年次では実習園の「できた」で１位、学生３位となっているが参考に『不安理由（以後不安とする）の「実習園に関すること」』を見ると、開始時では園や教育方針・指導教官などについて把握できていないとして「分からない」不安を訴えているが、「アンケートＣの理由（以後理由とする）」でみると第１位・２位・３位共、園の教育方針・教育内容・一日の流れなどが「分かった」と述べられている。しかし、２年次実習を控えていることを意識し中間時の「不安」では「ついていけるか」という分かってきた上での新たな不安が現れている。２年次になると学生の「できた」の順位が上昇して２位となっており、「理由」には園の教育方針・教育内容・一日の流れなどが「つかめた」として95.3%という高いポイントを裏づけている。実習園「できた」は３位ではあるがここでのポイントは95.4%と差のないことから、今後「質問１」に関しては学習努力の方向としてはよいにしても「できた」の内容をさらに分析して「評価表」ならびに「自己評価」の「Ｂ評価」を「Ａ評価」へと移行できるよう質的向上を目指し指導したい。

#### 「質問２」の「理由」について

１年次では実習園の「できた」で８位、学生も８位となっている。そこで「理由」をみると第１位では「授業が参考になった」としながらも、第２位「考える余裕がなかった」、第３位「後で気づいた」など心細さや戸惑いが述べられている。しかし、実習園はさらに厳しい順位を示しており、全体的に園評価が高い評価を示してくれていることを考慮すると、この学生の「参考になった」とした中身の甘さはあるにしても、１年次当初ということから考えれば過度でない数値である。２年次になると実習園「できた」は９位となり、学生も順位をさげて実習園と同じ９位となってしまっている。しかし、ポイントは園評価80.1%、学生評価66.4%で開きはあるがいずれも大変低い評価になっている。「理由」は第３位では「実践に移すのは難しかった」としながらも、第１位・第２位では「実践に移すことができた、対処が上手くいった」と前向きになっている。それは１年次の「できた」41.6%から考えれば学生なりに手応えがつかめたことが分かることから、その学生の手応えを探り、さらに援助できる指導の方向を検討したい。

#### 「質問３」の「理由」について

１年次では実習園の「できた」で６位、学生９位となっているが「不安」の「子どもに関すること」を見ると、開始時では「子どもたちとうまく関われるか、受け入れてくれるか」そして、「子ども理解ができない」と不安を訴えている。しかし、「理由」として半期の実習を済ませたところでは「少し分かってきた、見えてきた、理解を心がけた」など余裕を持って見られるようになっているが、この頃の「不安」では「上手く関われない、理解ができない、これでいいか不安」などが現れて

〔表７〕アンケート「Ｃ」における評価の「理由」　（単位：名）

| 質問１、「幼稚園の概要をつかむことができましたか」 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| １　年　次 | | | ２　年　次 | | |
| １位 | 園の教育方針が分かった | 33 | １位 | 園の教育方針がつかめた | 40 |
| ２位 | 園の教育内容や特徴が分かった | 26 | ２位 | １日の流れがつかめた | 21 |
| ３位 | １日の流れが分かってきた | 23 | ３位 | 園の様子が分かった | 20 |
| 質問２、「理論を現場に生かした実習ができましたか」 | | | | | |
| １　年　次 | | | ２　年　次 | | |
| １位 | 授業が参考になった | 31 | １位 | 実践に移すことができた | 31 |
| ２位 | 考える余裕がなかった | 17 | ２位 | 学んだように対処したら上手くいった | 29 |
| ３位 | 後で気づいた | 11 | ３位 | 実践に移すのは難しかった | 22 |
| 質問３、「子どもの心や行動を理解することができましたか」 | | | | | |
| １　年　次 | | | ２　年　次 | | |
| １位 | 少し分かってきた | 30 | １位 | 以前より理解できた | 33 |
| ２位 | 子どもの姿が見えてきた | 28 | ２位 | だいたい理解できた | 28 |
| ３位 | 理解するよう心がけた | 12 | ３位 | 理解するよう努力した | 24 |
| 質問４、「子どもの心や行動を理解した援助ができましたか」 | | | | | |
| １　年　次 | | | ２　年　次 | | |
| １位 | 少し分かるようになった | 29 | １位 | 自分なりに考えて援助できた | 45 |
| ２位 | 適切な援助ができなかった | 24 | ２位 | 適切な援助ができなかった | 29 |
| ３位 | 自分の活動がよかったか分からない | 14 | ３位 | 個々に合った援助ができなかった | 14 |
| 質問５、「技術は進歩しましたか」 | | | | | |
| １　年　次 | | | ２　年　次 | | |
| １位 | 少し進歩した | 55 | １位 | １年次に比べて進歩したと思う | 25 |
| ２位 | 努力して進歩した | 15 | ２位 | 自分なりに努力し進歩した | 24 |
| | 担任から学ぶことができた | 15 | | | |
| ３位 | よかったか分からない | 12 | ３位 | 日を重ねるごとに進歩していった | 20 |
| 質問６、「記録や提出物は期日までに提出し丁寧に書けましたか」 | | | | | |
| １　年　次 | | | ２　年　次 | | |
| １位 | 期日が守れた | 85 | １位 | 期日も守り丁寧に書くように心がけた | 36 |
| ２位 | 内容が不十分 | 23 | ２位 | 期日は守ったが少し雑になった | 33 |
| ３位 | 一生懸命書いた | 15 | ３位 | 期日に提出できた | 30 |
| 質問７、「園の教職員に対する礼儀や言葉づかいは気をつけましたか」 | | | | | |
| １　年　次 | | | ２　年　次 | | |
| １位 | 十分に気をつけた | 22 | １位 | 挨拶をしっかりするよう心がけた | 63 |
| ２位 | 自分なりにできたと思う | 16 | ２位 | 自分なりに気を配っていた | 35 |
| | 挨拶がしっかりできた | 16 | | | |
| ３位 | 敬語・丁寧語を使った | 14 | ３位 | 言葉づかいに気をつけた | 18 |

| 質問８、「服装やみだしなみは気をつけましたか」 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| １　年　次 | | | ２　年　次 | | |
| １位 | 動きやすい服装を心がけた | 93 | １位 | 動きやすい服装を心がけた | 94 |
| ２位 | 髪は結んだ | 41 | ２位 | 髪の毛はきちんとまとめた | 34 |
| ３位 | 派手にならないなど身だしなみに気をつけた | 20 | ３位 | 十分気をつけた | 21 |
| 質問９、「自己管理（心身の健康）はできましたか」 | | | | | |
| １　年　次 | | | ２　年　次 | | |
| １位 | 体調を崩した | 41 | １位 | 実習中に体調を崩した | 43 |
| ２位 | 体調を整えた | 36 | ２位 | きちんとできた | 28 |
| ３位 | 元気で欠席しなかった | 32 | ３位 | 寝不足になった | 27 |
| 質問10、「実習の成果はありましたか」 | | | | | |
| １　年　次 | | | ２　年　次 | | |
| １位 | 子ども理解ができるようになった | 33 | １位 | 多くを学んだ | 26 |
| ２位 | 自分から子どもに関われるようになった | 18 | ２位 | 子どもを見る目が育った | 21 |
| ３位 | 自分に気づかされ成長できた | 17 | ３位 | 失敗を通して学んだ | 18 |

〔表8〕アンケート「D・E」における実習への不安の理由

| 実習園そのものに関すること | | |
|---|---|---|
| | 1年次実習開始時 | 実習中間時（1年次実習終了時） |
| 第1位 | 先生方とのコミュニケーション | 先生方とのコミュニケーション |
| 第2位 | まだ園のことを把握できていない | 園の教育方針に追いていけるか |
| 第3位 | 園の教育方針についていけるか | 参加実習が不十分で不安 |
| 子どもに関すること | | |
| | 1年次実習開始時 | 実習中間時（1年次実習終了時） |
| 第1位 | 子どもたちとうまく関われるか | 子どもたちとうまく関われない |
| 第2位 | 自分を受け入れてくれるか心配 | 子ども理解ができない |
| 第3位 | 子ども理解ができない | これでいいのか不安 |
| 指導・援助に関すること | | |
| | 1年次実習開始時 | 実習中間時（1年次実習終了時） |
| 第1位 | 指導・援助言葉がけの仕方 | 適切な援助・指導ができない |
| 第2位 | 適切な援助・指導ができない | どうしていいか分からない |
| 第3位 | いろいろな状況に適切に対応 | 言葉がけがうまくいかない |
| 教材に関すること | | |
| | 1年次実習開始時 | 実習中間時（1年次実習終了時） |
| 第1位 | 時と場合に適した教材活用 | 紙芝居・絵本の選び方と扱い方 |
| 第2位 | 絵本の扱い | どんな時にどのような教材を使えばいいか |
| 第3位 | 子どもが楽しんでくれるか | あまり知らない |
| 記録に関すること | | |
| | 1年次実習開始時 | 実習中間時（1年次実習終了時） |
| 第1位 | きちんと書けるか | これでよいのか分からない |
| 第2位 | 書き方の実際が分からない | きちんと書けない |
| 第3位 | 保育中でのメモの取り方 | 書き方がよく分からない |
| 自分自身に関すること | | |
| | 1年次実習開始時 | 実習中間時（1年次実習終了時） |
| 第1位 | 保育能力・技術に関するもの<br>・子どもの前で適切な対応ができ自信がないなど<br>・本当に保育者としてやっていけるか | 保育能力・技術に関するもの<br>・きちんとした適切な対応ができているか<br>・子どもの引きつけ方 |
| 第2位 | 実習そのものに関すること<br>・きちんとやっていけるか<br>・担任との関わり<br>・どれだけ学び取れるか | 精神的・性格的なもの<br>・失敗を恐れ積極的に動けない<br>・保育者としてやっていけるか<br>・子どもの目に自分がどう映っているのか |
| 第3位 | 精神的・性格的なもの<br>・積極性がない<br>・いい加減<br>・精神的に疲れやすい<br>・やることが遅い | 実習そのものに関するもの<br>・自分が成長できているのか |

いる。これは2年次実習を控えていることから指導実習を意識しさらに不安がつのったものと考えられる。2年次になると実習園「できた」は6位と変化なしだが、学生の「できた」は上昇して7位となった。「理由」は「以前より理解できた、だいたいできた」と少し自信も見えているが「理解するよう努力した」と確信のもてない様子も見受けられる。「質問3」では低いが思ったよりは学生なりに成長の手応えを見いだしている。それは37.5%～75.0%に数値が上昇していることからも分かるが、保育実践の土台ともいえる項目だけに今後の重要な研究課題である。

「質問4」の「理由」について

1年次では実習園の「できた」は9位、学生も9位といずれも最下位となっている。「理由」をみると第1位では「少し分かるようになった」に続いて第2位「適切な援助ができなかった」、第3位「自分の活動がよかったか分からない」など不安な心情が伺える。2年次では実習園9位だったものが8位へ、学生は1年次とかわらず最下位だが順位は下がって10位となって55.2%にしかなっていない。「理由」は第1位では「自分なりにできた」としながらも、第2位「適切にできなかった」、第3位では「個々に合った援助ができなかった」となっていることを考えると、学生は子どもの発達や保育のねらいを踏まえて評価していると考えられることから、数値は低くとも援助目標は高くなっているといえる。これは「質問3」と関連している内容であろう。

「質問5」の「理由」について

1年次では実習園の「できた」で7位、学生も7位となっている。そこで、「不安」の「教材に関すること」を技術の一側面として参考にすると、開始時では「時と場合に適した活用ができるか、絵本の扱い、子どもが楽しんでくれるか」と初歩的なものがその理由となっているが、実際の活用体験後になると「選び方と扱い方、時と場合に適した教材活用法」また、実践を通して自分の準備不足を上げ、教材を「あまり知らない」としている。さらに「自分自身に関すること」の中で開始時は第1位に「保育能力・技術に関すること」として「子どもの前で適切な対応ができる自信がない」と述べ、体験後も「きちんとした適切な対応ができているか、子どもの引きつけ方、本当に保育者としてやっていけるか」と不安を述べている。このことも踏まえて「理由」をみると「少し進歩した、努力して進歩した、担任から学んだ」と共に、「よかったか分からない」とまだ明確な視点は定まっていない。2年次になると「できた」の順位は実習園5位となり、学生も5位と上昇している。「理由」は「1年次に比べて進歩したと思う、自分なりに努力し進歩した、日を重ねるごとに進歩していった」と時間の経過と共に経験を通して実感していったと考えられるが、「慣れ」以外の確信はまだ不十分である。

「質問6」の「理由」について

1年次では実習園の「できた」で3位、学生も3位となっているが「不安」の「記録に関すること」を見ると、開始時では「きちんと書けるか、書き方の実際が分からない、保育中でのメモの取り方」となっている。そこで「理由」として半期の実習を済ませたところでは「期日が守れた」と85名が述べているが、残る学生がどうであったかここではわからない。第2位には「内容が不十分、一生懸命書いた」と努力の姿勢が伺える。この頃の「不安」では「これでよいのか分からない、きちんと書けない」などと述べ質的向上を目指す姿勢が見られるが、気がかりなのは半期を終えてまだ「書き方がよく分からない」というものが第3位に現れている点である。2年次になると実習園「できた」は7位、学生の「できた」も6位と大幅に下がってしまった。「理由」には「期日も守り丁寧に書くように心がけた、期日は守ったが少し雑になった、期日に提出できた」と1年次に比べると「期日が守れた」人数も増加しさらに丁寧さなどに心がけている。また、書き方への不安も上位には見えない。2年次は指導実習もあり提出物の数も増加傾向は必至であったと考えられるが、こうした結果からみると学生なりの努力と能力の向上が見受けられる。

「質問7」の「理由」について

1年次では実習園の「できた」で2位、学生も

2位と高い順位となっているが「理由」としては「十分に気をつけた、自分なりにできたと思う、挨拶や言葉づかいができた」と述べており、その効果も数値に現れている。2年次になると実習園「できた」は1位と最高位になったが、学生の「できた」は下降して4位となった。「理由」には「挨拶をしっかりするよう心がけた、自分なりに気を配っていた、言葉づかいに気をつけた」など余裕や多少の自信も伺わせている。その割りには順位が下降しているが実習園の1位が98.4%に対し、学生は94.0%を上げていることを見れば、大きな問題はないと考えられる。

「質問8」の「理由」について

1年次では実習園の「できた」は2位、学生は1位と高い順位となっているが「理由」は第1位に「動きやすい服装を心がけた」と98名が記述しており、第2位からは「髪は結んだ、派手にならないようにした」など自分が何をしなければならないかが明確であり行動に現わしやすいことから結果も引き出せた。2年次になると実習園「できた」は2位と変わらないが、学生は「質問7」と共に下降してして3位となった。「理由」には94名の学生が「動きやすい服装を心がけた」、続いて「髪の毛はきちんとまとめた」と配慮に細やかさも加わり、「十分気をつけた」など自信も伺わせている。順位は低くなったが実習園の97.7%に対し、学生は94.1%を上げていることを見れば成果は上がったものと考えてよい。

「質問9」の「理由」について

1年次では実習園「できた」は5位、学生は「6位」となっているが、「理由」の第1位に「体調を崩した」があがっている。第2位には「体調を整えた」、第3位では「元気で欠席しなかった」と頼もしさも感じられるが、順位を考えると活動面が気がかりである。そこで「不安」をみると「自分自身に関すること」の「開始時」は第3位に「精神的・性格的なもの」として「積極性がない、いい加減、精神的につかれやすい、やることが遅い」などがあがっており、中間時においても「失敗を恐れ積極的に動けない、保育者としてやっていけるか」などが第2位にあがっていることを考え合わせれば、精神的な面を考慮してその時期に合わせた学生指導が必要である。2年次になると実習園「できた」は4位とあがったが、学生は8位にまで落ち込んでいる。「理由」には「実習中に体調を崩した」としている。これは1年次は通年実習で週に1日であったが2年次は一週間の集中が含まれていることを考えるとうなずける。また、「きちんとできた」に続き第3位では「寝不足になった」と記述していることから質問「6」の提出物のことから考えても学生なりの努力が認められるとしても、今後の実習形態や実習期間によってはこの点に配慮した指導が充実されねばならない。

「質問10」の「理由」について

1年次の「できた」は実習園4位、学生は5位となっている。「理由」は第1位に「子ども理解ができるようになった、自分から子どもに関われるようになった、自分に気づかされ成長できた」と自分の人間的な成長もあげている。2年次になると実習園「できた」は1位となり、学生の「できた」も上昇して1位と非常に評価が高く、学生に至っては99.3%となっている。「理由」としては「多くを学んだ、子どもを見る目が育った、失敗を通して学んだ」と保育者として、人間として成長した喜びも感じられる。しかし、その一面「不安」にあるように実習開始時では「きちんとやっていけるか、担任との関わりはどうか、どれだけ学び取れるか」、また、中間時では「自分が成長できているのか」などの声もあがっていることを考慮しそうしたものを支える配慮も必要である。さらに、実習園との価値観のずれを今後どのように調整できるか、また、成果の内容が実習の目的をどのように満たしているのかなど、さらに考察することが課題である。

## Ⅳ　まとめ

1年次から2年次に渡り長期の実習を進める中で、学生なりに努力しそれぞれが不安と戦いながら前向きに実習に取り組み、実習園側もそんな学生を実習生として支え、導かれているのが再確認でき感謝したい。先行研究[注1)]でも考察したように、学生は実習開始に対して非常に不安感を持って望む傾向が強く、時間経過と共に克服していく

が実習内容が観察から参加、指導へと進むことから、次々と新しい問題に直面している。しかし、多くの学生は真面目に努力し実習効果をもたらしていた。その中でも実習自己評価は実習園との差が目立ち全体的に低い傾向はあるものの「できた」としての手ごたえとして考えるとき、実習園と学生の評価の一致する面も見られる。しかし、「指導・援助」に対しての自信の乏しさは「子ども理解」の不十分さが大きな要因となっており、この点についてはさらに理論と共に子どもの姿が見えるような方向への指導を強化したい。質問項目のなかでも具体的に言動に移せるものには安堵感を持って答え評価も高いことから、解かれば努力していき、その成長も期待できる。また、自信の無さや不安を解消しようとする努力や手立てに意欲が不十分であることから、自らの保育の課題を研究していく環境をさらに整えることや、各実習園の実習評価の視点を詳しく分析し、学生にできるだけ具体的に指導することも必要であると考える。また、学生なりの努力が認められるとしても、性格的なものや精神的なものに対する援助は今後さらに重要である。近年の社会環境の中で育った学生が主体的に学習に取り組み、今後の社会に求められる保育者としての資質向上を願うとき、学生の意識や価値観、体力や精神力も視野にいれ、実習を通しての学生指導の上に個々の成長を考慮した指導も検討されねばならない。また、実習園との連携もさらに強め、学生についての理解を深め、共に協力して、今後に求められる保育者の養成に向けての実習の充実を図りたい。

## 注

（1）長根利紀代「本学学生における実習成果と自己評価の手がかりについて」名古屋柳城短期大学研究紀要，第18号，p135～163

（2）長根利紀代「実習における評価と実習効果についての一考察」名古屋柳城短期大学研究紀要，第20号，p174～P175

## 引用・参考文献

（1）名古屋柳城短期大学実習委員会「実習の手引」名古屋柳城短期大学，1996年

（2）秋山和夫・岡田正章他「教育実習」医歯薬出版株式会社，1992年

（3）文部省「幼稚園教育要領」大蔵省印刷局，平成10年

（4）文部省「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」株式会社ぎょうせい，1997年

（5）阿部明子「教育・保育実習総論」文書林，1998年

**—資料1（アンケート「B」）—**

# １９９８年度教育実習事後指導（まとめ）アンケート

教育実習評価表・自己評価　　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 幼稚園

No. ＿＿＿＿　氏　名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

| 評価項目 | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 意欲・態度 | | | | |
| 2 | 指導・援助 | | | | |
| 3 | 記　　録 | | | | |
| 4 | 課題研究 | | | | |
| 5 | 総　　合 | | | | |

＊上記アンケートの１～４の評価項目について自己評価し、Ａ～Ｄの当てはまる評価の欄に○をつけなさい。

—資料２（アンケート「A」及び「C」）—

# 教　育　実　習［自　己　評　価］

園　名［　　］幼稚園

クラス［　　］　No.［　　］　氏名［　　］

1. 幼稚園の概要をつかむことができましたか？　［A・B・C・D］
［　　］

2. 理論を現場に生かした実習ができましたか？　［A・B・C・D］
［　　］

3. 子供の心や行動を理解することができましたか？
［　　］

4. 子供の心や行動を理解した援助はできましたか？　［A・B・C・D］
［　　］

5. 技術面は努力し進歩しましたか？　［A・B・C・D］
［　　］

6. 記録や提出物は期日までに提出し丁寧に書けましたか？　［A・B・C・D］
［　　］

7. 園の教職員に対する礼儀や言葉遣いは気をつけましたか？　［A・B・C・D］
［　　］

8. 服装や身だしなみは気をつけましたか？　［A・B・C・D］
［　　］

9. 自己管理（心身の健康）はできましたか？　［A・B・C・D］
［　　］

10. 課題研究の視点はよかったですか？　［A・B・C・D］
［　　］

11. 実習の成果はありましたか？　［A・B・C・D］
［　　］

＊［　　］の中に理由を書いてください。